

しずおか
COSMOS PLAN から



平成 24 年 7 月 改訂
新旧 対照表

平成 25 年 6 月 21 日

焼津市教育研究会 学校事務部研修会 資料

改訂前 (H18)

表紙裏

いつの時代も学校の主役は子どもたちである。

現在は、構造改革・地方分権が推進され社会変革の時代である。

教育界においても第3の教育改革の真っ只中にあり、子どもたちを心豊かに育むためには、家庭・学校・地域が一体となり連携をとりながら活動していく必要が一層求められる。

このような状態を、宇宙に例えるとしたら、中心は子どもであり、子どもを取り巻く惑星は家庭、学校、地域となるであろう。

~~その~~惑星のひとつ、学校で働く私たち事務職員は、豊かな学びを支援する職員として、子どもたちの健やかな成長を願っている。あわせて、私たちも自らを高め、未来へ向かって飛躍していきたいと願っている。

この願いを実現するために私たちの活動の指針として、21世紀の学校事務デザイン「しずおか COSMOS PLAN ~~(コスモスプラン)~~」を策定した。

見開き右側

発刊時の会長挨拶全文（略）

P. 2

長期活動計画からの出発

2 学校事務を取り巻く課題

現在、地方分権という大きな流れの中で、各自治体には自主・自立と独自性が求められている。教育・学校においても例外ではなく、平成10年9月の中教審答申「今後の地方教育行政のあり方」に示された学校裁量権の拡大、学校の事務・業務の効率化、地域住民の学校運営への参画等が具体的な形となって学校に変化をもたらしている。

総合的な学習や、少人数指導・ティームティーチングの推進、外部講師の活用など、子どもの学びの支援形態やスタイルが変わる一方で、学校評議員制度・学校運営協議会の導入や学校開放、地域コミュニティとの融合など開かれた学校づくりの推進とともに、地域のセンター的存在に向かって動き出している。また、こうした動きとともに学校の安全管理の強化も求められている。

さらに、義務教育費国庫負担金の一般財源化の動きや、国立大学法人化をはじめとする公務員制度改革、事務処理のアウトソーシング化など制度的根幹にもかかわる行財政面の改革の過中でもある。

~~このように変化する時代の中で、新たな制度や社会の要求に応えながら、魅力ある学校づくりを推進し、「新しい学校」へと生まれ変わるための対応が必要となっている。~~

改訂後 (H24)

表紙裏

いつの時代も学校の主役は子どもたち！

急激な社会変化の中、子どもたちを心豊かに育むためには、家庭・学校・地域とが一体となり連携していく必要があります。

子どもを育てる環境を宇宙（コスモス）に例えると、中心に子ども、子どもを取り巻く家庭・学校・地域を惑星と考えました。

惑星のひとつ、学校で働く私たち事務職員は、子どもの豊かな育ちを支援する職員として、子どもの健やかな成長を願い、あわせて私たち自身も資質を高め、未来に向かって躍進したいと願っています。

この願いを実現するため、平成18年に「しずおか COSMOS PLAN」が策定されました。

コスモスには、調和という意味もあります。スクールマネージャーとして、時代の変化に対応し、心も資質も向上させ、調和のとれた事務職員になれるよう、新たに「しずおか コスモスプラン」として内容を改訂しました。

見開き右側

改訂時の会長挨拶全文（略）

P. 2

長期活動計画からコスモスプランへ

2 学校事務を取り巻く環境の変化

平成10年当時、地方分権という大きな流れの中で、各自治体には自主・自立と独自性が求められていた。教育・学校においても例外ではなく、同年9月の中教審答申「今後の地方教育行政のあり方」に示された学校裁量権の拡大、学校の事務・業務の効率化、地域住民の学校運営への参画等が具体的な形となって学校に変化をもたらしていた。

総合的な学習や、少人数指導・ティームティーチングの推進、外部講師の活用など、子どもの学びの支援形態やスタイルが変わる一方で、学校評議員制度・学校運営協議会の導入や学校開放、地域コミュニティとの融合など開かれた学校づくりの推進とともに、地域のセンター的存在に向かって動き出していた。

また、こうした動きとともに学校の安全管理の強化も求められていた。さらに、義務教育費国庫負担金の一般財源化の動きや、国立大学法人化をはじめとする公務員制度改革、事務処理のアウトソーシング化など制度的根幹にもかかわる行財政面の改革の時代でもあった。

改 訂 前 (H18)

3 長期活動計画からCOSMOS PLANへ

学校事務職員の職務の制度的な確立が進み、「長期活動計画」で願った「学校事務のあるべき姿」「学校事務職員のあるべき姿」が現実のものとなってきた。しかし、変化の激しい時代にあつて、学校が時代や地域社会の要請に応えるためには、今後学校事務職員として何をすべきか研究を深め、個々の能力を高める必要がある。「学校事務職員とはなにか」を原点から見つめ直し、「学校事務職員の目指す姿」を追求するために、長期活動計画を発展させなければならないと考える。

そこで、学校事務職員の職務を再確認し、課題を克服し、未来へ向かってさらに飛躍するために、21世紀の学校事務デザインとして「コスモスプラン」を策定した。

4 (新設)

改訂後 (H24)

3 長期活動計画からCOSMOS PLANへ

学校事務職員の職務の制度的な確立が進み、「長期活動計画」で願った「学校事務のあるべき姿」「学校事務職員のあるべき姿」が現実のものとなってきた。しかし、変化の激しい時代にあつて、学校が時代や地域社会の要請に応えるためには、今後学校事務職員として何をすべきか研究を深め、個々の能力を高める必要があつた。「学校事務職員とはなにか」を原点から見つめ直し、「学校事務職員の目指す姿」を追求するために、長期活動計画を発展させてきた。

そこで、学校事務職員の職務を再確認し、課題を克服し、未来へ向かってさらに飛躍するために、21世紀の学校事務デザインとして平成18年「しずおか COSMOS PLAN」が策定され今日までその実践が続けられてきた。

4 これからのコスモスプランへ

今日、私たちを取り巻く環境は、少子高齢化、経済・社会のグローバル化と競争の激化、地球規模の環境問題、高度情報化社会など国内外に急激かつ多様に変化してきている。学校教育においても教育三法の改正、教育振興基本計画の策定、学習指導要領の改訂などがなされ教育改革が進められている。子どもたちに「生きる力」を育むため、確かな学力の定着と豊かな心と健やかな体の育成をはかり、地域・家庭と連携していくことが求められている。このような教育改革の中、共同実施をはじめとする学校の組織運営体制の整備が課題となっている。地域・家庭や各教育機関と協働しながら、魅力ある学校・開かれた学校づくりを更に推進していくことが必要となってきた。

「COSMOS PLAN」の策定から6年余りの歳月が経ち、各校の事務職員は、スクールマネージャーを目指した具体的な実践を積み上げてきた。この「COSMOS PLAN」の理念を更に深め広げていくために新たに、「コスモスプラン」の改訂をした。

改訂前 (H18)

P. 4

COSMOS PLAN

2 学校事務職員の~~目指す~~姿

私たち学校事務職員は

「スクールマネージャー」を目指します。

学校の重要な経営スタッフとして、経営機能を高める役割を果たす

マネジメントできる人のことを「スクールマネージャー」と呼ぶことにします。

静岡県における教育の基本目標は、「未来をひらく「意味ある人」づくり」である。特に学校教育では、「意味ある人」づくりとして「『こころざし』を持った子ども」の育成を目指している。この基本目標達成のために教職員には高い人格や情熱・責任感・資質能力の向上が求められている。

また、「新しい学校」への転換には、経営の基本計画の策定・組織の機能化・情報の管理・地域との連携等、経営機能の強化が必要となっている。

このような状況の中で、学校事務職員は子どもの豊かな育ちを支援するために、多様な能力を備えた学校の重要な経営スタッフとして、経営機能を高める役割を果たす「マネジメントできる人」へと変わらなくてはならない。

スクールマネージャーの役割は、学校経営に参画することで、学校事務が子どもの豊かな育ちにどう関わっていくかを追求することと、4つのM（*1）をもとに、P・D・C・A（*2）を機能させ、学校教育目標の実現に貢献することである。

*1 4つのM

MAN …………… 人

MONEY …………… 金

MATERIAL …………… 物

MIND …………… 心

*2 P・D・C・A

PLAN …………… 計画

DO …………… 実行

CHECK …………… 評価

ACTION …………… 見直し

改 訂 後 (H24)

P. 4

コスモスプラン

2 スクールマネージャーとしての学校事務職員の姿

私たち学校事務職員は

「スクールマネージャー」です。

スクールマネージャーとは、学校の重要な経営スタッフとして、
経営機能を高める役割を果たすマネジメントできる人のことです。

静岡県における教育の基本目標は、「『有徳の人』の育成」です。個人として自立し、人との関わり合いを大切にしながら、よりよい社会づくりに参画し、行動する人を、徳を備えた人ととらえ、「有徳の人」の育成を目指しています。この基本目標達成のために、教育活動に深い理解と熱意を持ち、その職種の専門領域に精通するとともに、広い視野を備えて業務に取り組む、豊かな人間性や社会性を身に付けた、心身共に健全な「頼もしい教職員」を目指し、資質・能力の向上を図ることが求められています。また、頼もしい教職員に求める力は、「授業力」「生徒指導力」「業務遂行力」「マネジメント力」です。学校という組織が、異なる職種の相互理解と協力によって成立していることから、これらの力は、事務職員にも必要とされる力です。

このような状況の中で学校事務職員は子どもの豊かな育ちを支援するために、他職種と協働して、多様な能力を備えた学校の重要な経営スタッフとして、経営機能を高める役割を果たす「マネジメントできる人」にならなくてはなりません。

スクールマネージャーの役割は、学校経営に参画することで、学校事務が子どもの豊かな育ちにどう関わっていくかを追求することと、4つのM（*1）をもとに、P・D・C・A・（R）（*2）を機能させ（=マネジメント）、学校教育目標の実現に貢献することです。

*1 4つのM

MAN …………… 人
MONEY …………… 金
MATERIAL …………… 物
MIND …………… 心

*2 P・D・C・A・（R）

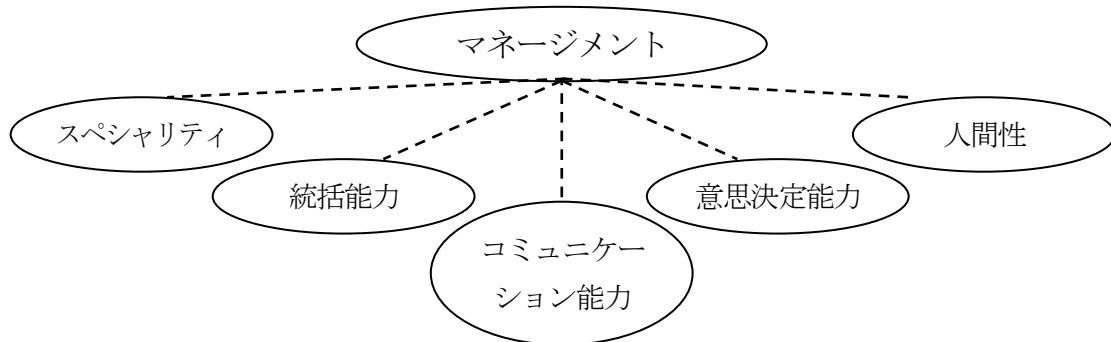
PLAN …………… 計画
DO …………… 実行
CHECK …………… 評価
ACTION …………… 見直し
（RESEARCH） …… 調査

改訂前 (H18)

P. 5

3 スクールマネージャーに必要な資質

スクールマネージャーとして学校の重要な経営スタッフの役割を果たすため、次のような力量が必要と考える。



(1) スペシャリティ

学校における法規・庶務・経理など学校事務のすべての領域に精通し、それを活用する能力

(2) 統括能力

学校事務部門の総括者として事務部の経営を行う能力

(3) コミュニケーション能力

機に応じ説得力・調整力・接遇能力を発揮し、組織内外の調整や交渉ができる能力

(4) 意思決定能力

学校教育目標達成のための企画と適切な判断を行うことができる能力

(5) 人間性

教育活動に深い理解と熱意を持って職務に取り組む

豊かな人格を備え、学校に勤務する全ての職員と協調して職務を遂行できる能力

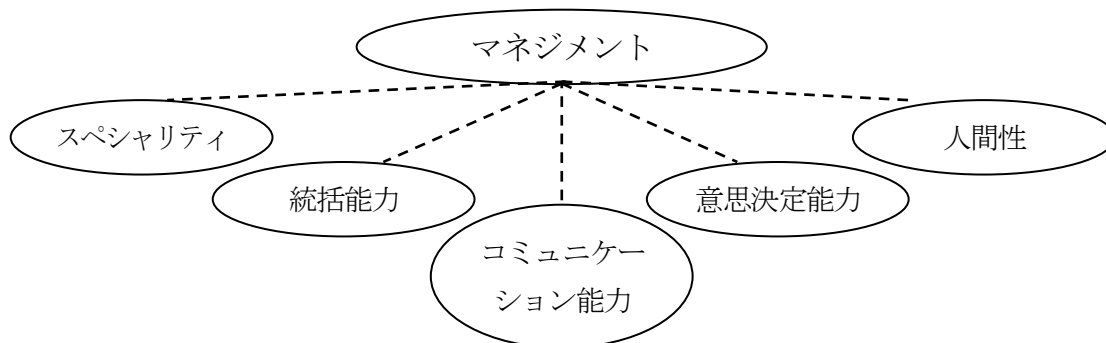
改訂後 (H24)

P. 5

3 スクールマネージャーに必要な資質

スクールマネージャーとして学校の重要な経営スタッフの役割を果たすため、次のような力量が必要と考える。

5つの資質がバランスよく備わってこそその「スクールマネージャー」である。



○スペシャリティ

学校における法規・庶務・経理など学校事務のすべての領域に精通し、それを活用する能力

○統括能力

学校事務部門の総括者として事務部の経営を行う能力

○コミュニケーション能力

機に応じ説得力・調整力・接遇能力を発揮し、組織内外の調整や交渉ができる能力

○意思決定能力

学校教育目標達成のための企画と適切な判断を行うことができる能力

○人間性

教育活動に深い理解と熱意を持って職務に取り組む

豊かな人格を備え、学校に勤務する全ての職員と協調して職務を遂行できる能力

改 訂 前 (H18)

P. 6

4 活動プラン（スクールマネージャーを**目指して**）

スクールマネージャーを**目指し**、~~学校事務職員の~~役割**及び**必要な資質を高めるための活動プランを例示する。

(1) 子どもの豊かな育ちを支援する

学校事務職員が子どもの育ちを支援することとは、どうしたら子どもにとって「魅力ある学校」になるかを念頭において行政職員の立場で**管理・運営面から**教育活動を支援することである。

例えば、特色ある学校づくりを進めるために校内予算を有効に執行することや教員が**本来の職務である**教育活動に専念できるよう学校事務の効率化・能率化を図ることなどである。

項 目	活動のポイント
情 報 管 理	●情報の一元化と共有化 ●学校事務の I T 化
危 機 管 理	●危機対応の体系化への参画と対策の推進
共 同 実 施	●学校間連携の推進 ●行政機関との連携 ●事務処理の適正化・効率化を図り学校管理運営全般への支援
事務組織の機能化	●全職員が経営スタッフとして参画できる組織づくり ●校内分掌組織が有機的に機能するシステムの構築
経 営 参 画	●事務 主任 として学校経営を推進 ●事務経営の充実 ●学校経営計画策定への主体的な参画
財 務	●教育目標具現化のための予算計画及び執行
教 育 環 境	●安全で快適な施設、設備の計画及び維持管理 ●「新しい学校」に対応する環境づくり
地 域 と の 連 携	●地域と連携、協調し、特色ある学校づくりを推進 ●地域活動への参加と支援
諸 規 定 の 整 備	●管理規定の整備 ●校内諸規定の整備

改 訂 後 (H24)

P. 6

4 活動プラン (スクールマネージャーとして)

スクールマネージャーとしての、役割を果たし必要な資質を高めるための活動プランを例示する。

(1) 子どもの豊かな育ちを支援する

子どもの豊かな育ちを支援するためには、子どもに「生きる力」を育み「有徳の人」となるべき子どもを育てる学校となるよう、事務職員の立場から実践することが必要である。学校経営を支える行政職員の立場で専門的知識とマネジメント力で教育活動を支援しなければならない。

例えば、特色ある学校づくりを進めるために校内予算を有効に執行することや、教員が教育活動に専念できるよう学校事務の効率化・能率化を図ることなどである。

項 目	活動のポイント
経 営 参 画	<ul style="list-style-type: none"> ●事務職員として学校経営を推進 ●事務経営の充実 ●学校経営計画策定への主体的な参画
諸 規 定 の 整 備	<ul style="list-style-type: none"> ●管理規定の整備 ●校内諸規定の整備
事務組織の機能化	<ul style="list-style-type: none"> ●全職員が経営スタッフとして参画できる組織づくり ●校内分掌組織が有機的に機能するシステムの構築
共 同 実 施	<ul style="list-style-type: none"> ●学校間連携の推進 ●行政機関との連携 ●事務処理の適正化、効率化を図り学校管理運営全般への支援
財 務	<ul style="list-style-type: none"> ●教育目標具現化のための予算計画及び執行 ●教材活用状況の把握
<u>教 育 課 程</u>	<ul style="list-style-type: none"> ●学習指導や教材指導への理解
教 育 環 境	<ul style="list-style-type: none"> ●安全で快適な施設、設備の計画及び維持管理 ●「新しい学校」に対応する環境づくり
情 報 管 理	<ul style="list-style-type: none"> ●情報の一元化と共有化 ●学校事務のIT化 ●情報通信の利活用 ●情報セキュリティ
危 機 管 理	<ul style="list-style-type: none"> ●危機対応の体系化への参画と対策の推進
地 域 と の 連 携	<ul style="list-style-type: none"> ●地域と連携、協調し、特色ある学校づくりを推進 ●地域活動への参加と支援

改 訂 前 (H18)

P. 7

(2) 力量形成をする

学校事務職員が、スクールマネージャーへと成長していくためには、先に掲げた5つの資質の向上が必要である。

会員個々が自己研鑽を積むことに加えて、組織として“キャリアデザイン”（*3）の推進や自己・外部評価についての研究など、力量形成の支援をしていく必要がある。

項 目	活動のポイント
研 修	● 「事務職員研修計画」の実践（*4）
評 価	● P・D・C・Aの実践による自己及び外部評価

*3 個人個人の責任の元に、自らの職業人生を通して、~~自分はどんな自分になりたいかを求め~~、今自分が持っている能力や資質を整理し、なりたい自分を実現するためにどんな能力や資質をどのように身につけていくかという、自らが実行する行動計画

*4 平成14年5月に事務研究会が策定した研修計画
学校事務職員の資質向上を目指し、生涯にわたる研修領域と研修内容を体系化したもの

(3) 環境を整える

あらゆる機会を捉え学校事務のPR活動に努めるとともに、学校事務職員の適正な配置・処遇や給与体系の改善のための研究を進め、スクールマネージャーの環境を整える。

項 目	活動のポイント
給 与 体 系	●職務内容と給与体系の継続研究と改善
事 務 職 員 配 置	●全校配置を基盤として、複数配置の充実
学校事務のPR	●校内外へのPR活動の実践

改 訂 後 (H24)

P. 7

(2) 力量形成をする

学校事務職員が、スクールマネージャーへと成長していくためには、先に掲げた5つの資質の向上が必要である。

個々の会員が自己研鑽を積むことに加えて、組織として“キャリアデザイン”（*3）の推進や自己・外部評価についての研究など、力量形成の支援をしていく必要がある。

項 目	活動のポイント
研 修	● 「事務職員研修計画」の実践（*4）
評 価	● P・D・C・A・ <u>(R)</u> の実践による自己及び外部評価

*3 個人個人の責任の元に、自らの職業人生を通して、今自分がもっている能力や資質を整理し、なりたい自分を実現するためにどんな能力や資質をどのように身につけていくかという、自らが実行する行動計画

*4 平成21年4月に事務研究会が策定した研修計画（「段階的研修目標」及び「自己研修計画」）学校事務職員の資質向上を目指し、生涯にわたる研修領域と研修内容を体系化したもの

(3) 環境を整える

学校事務職員の適正な配置・処遇や給与体系の改善のための研究を進めるとともに、あらゆる機会を捉え学校事務のPR活動を行い、スクールマネージャーの環境を整える。

項 目	活動のポイント
給 与 体 系	●職務内容と給与体系の継続研究と改善
事 務 職 員 配 置	●全校配置を基盤として、複数配置の充実 ● <u>共同実施を含む地域間連携</u>
学校事務のPR	●校内外へのPR活動の実践